

## 平成20年度愛知県食育推進会議 議事録

### 1 日時

平成21年3月25日(水) 午後1時から午後2時10分

### 2 場所

愛知県自治センター 12階 会議室E

### 3 出席者

会長及び委員27名

説明のために出席した者 農林水産部長始め16名

### 4 議事の概要

#### (1) 会長あいさつ

本日は、委員の皆様方には大変お忙しい中、平成20年度愛知県食育推進会議に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃から、本県行政の推進に当たりまして、それぞれのお立場から、御理解と御協力をいただいております。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

まず、始めに、皆様方にご心配をおかけしていますが、2月下旬、豊橋のうずらで発生しました高病原性鳥インフルエンザにつきましては、地元豊橋市とも協力して、防疫対策に万全を期しております。

鳥インフルエンザにつきましては、「うずらの卵や肉を食べることによりヒトに感染することは考えられず、食べても『安全』である」と国の食品安全委員会が公表しておりますので、風評被害の防止等につきましても皆様方の御理解をお願いします。

さて、平成20年度の食を取り巻く状況を振り返ってみますと、相次ぐ食品偽装や事故米の流通問題などにより、県民の食に対する不安・不信が高まった一年でありました。また、輸入食品の安全性に対する不安や輸入価格の高騰などにより、食料の海外依存に対する見直しの機運が高まった一年でもございました。

このような中、食の安全・安心や食料自給率の向上について、県民の意識や関心は高まりを見せており、食育の推進は、ますます重要となっております。

関係団体の皆様方におかれましても、それぞれ創意工夫を凝らし、学校や地域で、あるいは消費者、生産者それぞれのお立場から様々な取組を行っていただいております。

こうした取組により、食育の輪は着実に広がりを見せており、あいち食育いききプランの数値目標の一つである「食育に関心を持っている県民の割合」も、目標である9割をすでに超えることとなっております。

また、本年2月には、愛知県発祥の食品関連企業8社で結成されました「あい

ち食育サポート企業団」が、農林水産省の提唱による「地域に根ざした食育コンクール 2008」で、全国 306 事例の中から最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞されました。

食育は、様々な関係者がお互いに連携・協力しながら、県民運動として盛り上げていくことが大切であると思います。そのためにも、この推進会議の担う役割には、大変大きなものがあると考えております。

本日は、今年度1年間の県内の食育推進の取組事例などを取りまとめた「あいち食育いきいきレポート」や、来年度の活動計画等について御審議をいただくこととしております。

委員の皆様方には、限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げますとともに、今後とも本県の食育推進に御理解と御協力をお願い申し上げます。

もう一つ、この場をお借りして、皆様方にお力添えをお願いしたいことがございます。2010年10月に本県で環境分野では最大級の国際会議「生物多様性条約第10回締約国会議」COP10が190の国や地域の参加で開催されます。県といたしましては、会議開催の支援はもちろん、生物多様性を保全することの大切さを県民の皆様にご存知いただくための取組などを進めてまいりたいと考えております。「食を通じて環境に優しい暮らしを築く」という本会議の取組とも深く関連しておりますので、COP10の成功に向け、御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。私のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

## (2) 会議録署名人の指名

石川委員と岩田委員を署名人に指名

## (3) 議事

### ア 平成21年版「あいち食育いきいきレポート」について

#### 議長

まず、議題の(1)平成21年版「あいち食育いきいきレポート」について事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局の説明】

資料1及び2により説明。

#### 【意見等】

#### A委員

このレポートなかで、「特集」として挙げられた、「資料1」1ページ目の「農業高校生と子どもたちの関わり」に注目したいと思う。これからの担う次世代の子どもたちの

食育ということで、非常に良い取り組みである。「双方に対する効果的な取組」であったということであるが、今、学校教育では指導要領が改訂されて、「共同的な学び」ということで、年齢の異なる方と触れ合いながら、共に育っていくことが言われている。まさに、この取組は、高校生と子どもたちが、それぞれの良さを出し合いながら、ともに高まりあっていくという良い例である。「資料2」8ページに、「生徒の感想」と「参加者の感想」とあるが、大変微笑ましい良い感想が挙げられている。今後ともこのような取り組みを続けて欲しい。

#### 議長

ありがとうございました。他の方なにかございますか。

先ほど、A委員から頂いたのは、レポートに対する肯定的な意見であったかと思えます。それでは、21年版の「あいち食育いきいきレポート」につきましては、原案通り承認頂けますでしょうか。

#### 委員

(異議なし)

#### 議長

ありがとうございました。

では、御意見もつきたようですので、原案通り承認とさせていただきます。

### イ 平成21年度における食育推進の取組について

#### 議長

それでは続きまして、議題の(2) 平成21年度における食育推進の取組について、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局の説明】

資料3-1及び資料3-2により説明。

#### 【意見等】

#### 議長

ただいま、議題(2)のAとIを一括して説明させていただきましたが、それぞれについての御意見、御質問等を承りたいと存じます。

まず、Aの「県及び関係団体の取組」について、何かそれぞれの団体の取組の内容について、皆様御自身からも御報告いただける事柄がございましたらお願いしたいと存じます。

#### B委員

私どもは、学校給食に関わる栄養職員協議会であります。20年度のレポートの私ども団体の実績から見て、21年度の取組について少し述べさせていただきます。

プランが目指す「学校給食における地場産物を使用する割合」であるが、平成17年に27.7%から始まり、目標値は35%であるが、現在34.7%となっており、目標達成まであと一歩となった。この2年間で、学校給食関係者の地場産物に関する理解が十分に高まったと感じている。なかでも50%以上達成した市町もあり、生産者の方々や団体関係者との連携も深まってきたと感じている。

資料2の5ページにも紹介させていただいたが、私ども20年度は「地産地消マップ」という布製のマップを、愛知県版、日本版、世界版の3つを作成した。これは、学校給食の食材が、どこからきているのか、地産地消の利点は何なのかという、食の指導に活かせる教材として、作成したものである。21年度はさらに、このプランの柱でもある、「環境」にも触れながら、地場産物の活用率を高めていくことを考えていきたい。

プランの掲げるもう一つの目標、朝食の欠食率であるが、これもレポートにあるように、現在、小学生が2%。中学生が4.5%まで下がっており、目標値にだんだん近づいてきた。しかしこれは同じ市町内においても、かなり学校間の格差が見られる。今年度4月、全市町1名ずつの栄養教諭が配置され、それぞれ活躍しており、配置された学校では既に朝食欠食率0%と言う学校もでてきた。そうでなくても、朝食欠食がなくなると、様々なよい変容が現われているな、とわかってきた。給食の食べ残しが4.3%から0.5%に減った。給食を残さない意識が、47%から72%に高まった。箸が正しく持てるこどもが、46%から83%に増加した。そして何よりも、栄養教諭が学校にいるということから、食育に関心を持つようになった教員の数が、17%から74%に高まったのは、配置の大きな効果であると考えます。

このような効果から、21年度は学校における食育を全力で進めていくため、20年度の栄養教諭の配置の成果を考えると、今後は学校栄養職員という身分での指導ではなく、できれば栄養教諭として指導することが効果的であるのだから、ぜひとも早い時期での拡大をお願いする。

#### 議長

ありがとうございました。

その他に御意見ありますでしょうか。

#### C委員

先ずはお礼といたしまして、特に8割ほどを占める栄養教諭の配置を始めとして、これほど多額の予算をつけていただきましたことを感謝申し上げます。

食育の話というのは、命の話であり、その一番の責任は親、家庭にあると思う。家庭できちんと命の話が出来ていないという状況で、このような県や様々な団体の取組がないと、親の理解は深まらない。日本はもともと食育というものがあつたが、それが代々根付いていかないということが問題である。これは、我々親として、非常に反省するところである。PTAとしても様々な取組をしていくが、皆さんからも、家庭に対し厳し

い目で助言アドバイスしていただきたい。

## 議長

ありがとうございました。

## D 委員代理

まず1点目は、子どもに対しての取組についてです。子どもの給食の残し率についてであるが、1、2年生では89～92%、その後年々下がり、6年生には4割まで下がってしまう。この数字を見ると、「食」に対する認識を教育してこなかったと痛感します。50%残した児童の割合でもこれなのだから、少しでも残した児童数をカウントすると、もっと割合が高まるのだろうと思う。この問題に対して、どのような取組をしていくべきかお伺いしたい。

もう一点は、30代後半から40代という、体力が落ちてくる年代に対する取組をお聞きしたい。

## 事務局（教育委員会健康学習課）

給食の残量を減らすには、という質問を頂いた。給食を残さないためには、児童生徒の嗜好を考えた味付けや、献立の多様化が必要と考えている。また、学級においては、楽しく食べる環境づくりも大切な要素となると考えている。これに向け、学校栄養職員、学校栄養教諭の方々が、工夫をしながら、献立作りをしているところである。

## 事務局（農林水産部食育推進課）

1点目については、もったいないと感じる心、自然の恩恵への理解、これらを深めることが必要である。県では、農林水産部の研究職員が出向き、実験などを通し、農業の大切さ、食べ物大切さを訴える出前授業を行う、「農楽の先生」という事業を行っている。これらの取組を通じ、食べ物を大切に作る心を養っていく、

2点目については、お配りしている「働き盛りの皆さんへ Let's 食育」という普及啓発資料を作成し、食育推進店に配布している。また、これまでも、マンガによる啓発冊子を作成し、若い世代をターゲットにしたわかりやすい普及啓発に取り組んでいる。

## E 委員

P T Aの会長さんのお話を聞いていると、核家族化という社会の中で、私たち高齢者の重要性をひしひしと感じている。豊橋の大学におばあちゃんの手ほどきという催しに参加したときのことであるが、忍耐が無く自分の言いたいことを言う若い人が多い中で、私たち他人であるおばあちゃんが話をきくことで、若い人たちが非常に素直であるということを感じた。

輝きネットあいち今年で45周年を迎える。先日、1月に45周年の記念大会を開催させていただいた。その中で、若いお母さんから勉強したいという声を多く聞いた。現在、145名の方たちが「技人」として活躍し、年間200～250件程度の奉仕活動を行っている。

私が4年間代表を務めた中で感じることは、愛知県の中でも、東西南北地域差があるということ。私が住んでいる東三河では、まだ、食育の出番というものの必要性が薄い。そして対象としては、小さい子どもに対してではなく、若いお母さんに対する取組が必要。特に伝えていかなければならないのは、地産地消である。また、聞く耳を持つ子どもを育てることも重要。

私は3月末をもって会長を退任する。今後も若いお母さん方に目を向けていただいて、食の大切さを訴えていって欲しい。どうかよろしく願いいたします。

#### 議長

ありがとうございました。

その他ありますでしょうか。

#### F委員

2点質問させていただきます。

まず1点目として、21年度の予算は総額6億6千万あまりということだが、現在県の財政が厳しいと聞いているが、20年度にくらべどれだけ変わっているのか。

2点目として、栄養教諭の配置が予算の8割を占めており、非常に力を入れているように感じられるが、そのあたりの考えを聞かせてほしい。

#### 事務局（農林水産部食育推進課）

20年度の食育関係事業費8億832万円でした。81.8%となっている。減少した主な要因は、「食を通じて環境に優しい暮らしを築く」というテーマの中で、「家畜排泄物等の農林水産業における試験循環の推進」という項目で、今年度ハード事業として施設整備が挙げられていたが、来年度はそのようなハード事業がなくなったことである。ソフト事業については、大きくは変わっていない。

#### 事務局（教育委員会健康学習課）

栄養教諭については、今年度67名配置させていただいた。内訳は、各市町村に1名、名古屋市・豊田市は100校以上学校があるということで2名配置、特別支援学校に4名配置した。来年度は5名の新規採用の栄養教諭を配置するということである。ただこれは、栄養職員の定数の中で、栄養教諭を配置するということであり、別枠でさらに増員というわけではない。栄養教諭の配置による交付金であり、実際に栄養職員の給与より少し高い程度であり、実質上これだけプラスアルファということではない。

#### 議長

まだまだ御意見を頂きたいところでございますが、時間の都合もございますので、この程度にしたいと思います。

それぞれの団体の皆様には、積極的に取り組んでいただいていることを、厚く御礼申し上げます。今後はさらに横のつながりを作り、県民運動につながるような取組をしてまいりたいと考えておりますので、団体の皆様にはいっそうのお力添えを賜りたいと考

えております。

#### **議長**

それでは続きまして、伊の『『あいち食育いきいきレポート（平成 22 年版）』の作成方針』について、何か御意見・御質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。これについては、この方向で作らせていただきますが、作成段階で、色々な意見をいただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### **ウ その他**

##### **【事務局の説明】**

口頭で、平成 21 年度の愛知県食育推進会議の開催予定について、平成 22 年 3 月に 1 回開催する旨を説明。

#### **議長**

以上で予定しておりました議事はすべて終了いたしました。

委員の皆様方には、議事の進行に御協力をいただきまして、大変、ありがとうございました。

（ 署 名 人 ） （印）